

カーボンニュートラル社会を リードする Net Zero の追求

公益社団法人 空気調和・衛生工学会
会長 秋元 孝之



明けましておめでとうございます。

昨今、世界的な気候変動への対応や持続可能な社会の構築は、我々の分野においても極めて重要なテーマとなっています。空気調和・衛生工学は、人々の快適な生活環境を支えるだけでなく、エネルギー効率向上やカーボンニュートラルの実現においても中心的な役割を果たしています。特に、日本においては、災害対応や高齢化社会への対応という課題も絡み合い、社会から求められる責任は一層重くなっています。今年も大岡龍三副会長、山本一郎副会長、柳井崇副会長をはじめとした理事・監事総勢33名および事務局の皆様と力を合わせ、当学会の発展に取り組んでいく所存です。どうぞ宜しくお願いいたします。

当学会関連行事としては、令和6年5月10日に第97期社員総会を明治記念館にて開催いたしました。前回は代議員を対象を限定としたハイブリッド方式として会場出席者も制限していましたが、今回はようやくコロナ禍前の通常通りのスタイルに戻りました。その後の交流会も5年ぶりに開催されて、久々に会員の皆様と直接お会いすることができました。また、大会は令和6年9月11日～13日に、佐賀大学本庄キャンパスにて開催いたしました。発表論文数は一般が749編、オーガナイズドセッションが4編、合計753編となり、過去最高を記録するとともに、参加者も1500名を超えました。公開講演会“不易流行の酒造り(七田謙介氏)”に引き続き交流会にも多数が参加して、旧交を温めるよい機会となりました。会場とオンライン併用のハイブリッド方式で実施した大会ワークショップは4件開催され、そのテーマは、ウェルネスと室内空気質、給水負荷算定法、カーボンニュートラル、空調設備の運用最適化に関するものと多岐にわたる内容でした。今年も中国・四国支部管内にて大会開催を予定しており、大いに盛り上がることを期待しています。

当学会では、平成24年3月に“21世紀ビジョン”、平成29年12月に“21世紀ビジョン・プラス”を発表し、三つの提言と学会の役割を示してきました。その後の社会情勢の急激な変化や技術開発の進展を鑑みて、空気調和・衛生工学分野としてのカーボンニュートラル社会の実現に向けたさらなる貢献が求められており、令和4年4月に“カーボンニュートラル社会実現に向けての学会方針検討委員会”が創設されています。この度、その成果をまとめて、令和6年9月2日に、“カーボンニュートラル社会をリードする Net Zero の追求—空気調和・衛生工学分野の5つの提言—”を公表しました。カーボンニュートラル化とその後の社会に向けて、空気調和・衛生工学分野として取り組むべき課題と方向性を示しています。

さて、会員の皆様にご活用いただいている“空気調和・衛生工学便覧”ですが、最後の改訂の平成22年から14年が経過していることから、早急に改訂の準備を進めるべくその活動を開始しました。当学会を取り巻く変化に対応した内容の見直しも必要となっています。情報の発信方法、受け手側の触れ方や入手方法も考慮した提供方法を考えてまいります。また、若手研究者の育成と表彰対象の裾野の拡大を考慮し、学会論文賞と技術賞に奨励賞の制度の運用も開始しました。次代を担う研究者・技術者の皆様はSHASE 論文集への投稿や技術賞への応募を期待します。

今後も空気調和・衛生工学が行うべき社会への貢献のあり方を追求し、その存在価値を高めることに注力していきたいと考えています。会員の皆様にとって関心のあるテーマについて、積極的な情報発信を推進してまいりますので、皆様方のご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。